

時	ねらい	学習活動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
1 江戸幕府の滅亡	江戸幕府の滅亡について関心をもち、単元を貫く課題を設定し、今後の見通しをもつことができる。	<p>1. 略年表を見て、これから学ぶ時代の流れをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペリーが黒舟で来航し、開国することになった。 ・薩摩と長州などによって倒幕運動がすすめられた。 ・どうしてこの時期に江戸幕府が滅ぶことになったのだろうか。 <p>《単元を貫く課題》</p> <p>江戸幕府が滅亡したのはなぜだろう</p> <p>2. ペリーの来航の様子から課題についての考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒船は大きいだけでなく、蒸気で動いている。 ・たった4艘で夜も眠れないほど大騒ぎになった。 ・日本とは産業の発展に大きな違いがあり、欧米諸国は産業が大きく発展しているに違いない。 <p>3. 今後、学習していきたいことをまとめる。</p>	<p>ア - 江戸幕府が滅亡したことに関心をもち、今後の学習に対して追究意欲をもっている。</p> <p>場面 終末</p> <p>(方法) ノートのまとめ 発言内容</p>	<p>略年表(自作) 黒舟(絵) 上喜撰(川柳) 幕府だけでなく、外国の動きにも目を向けるようにする。</p> <p>援助 幕藩体制が確立していた頃と今後の学習内容を比較させる中で、倒幕を進めた薩長両藩の動きに注目させる。</p>
		<p>260年以上も続いてきた江戸幕府がとうとう滅ぶときがきた。これまで幕府は、いろいろな改革をして経済を立て直そうとしたことや外国船がやってきたこと、さらに諸藩の動きが関係しているのではないだろうか。欧米諸国の動きと国内の動きの両面から新しい時代の幕開けをみていきたい。</p>		
2 欧米諸国の市民革命	フランスでは平民が封建的な支配からの開放を求めて革命をおこしたことを理解することができる。	<p>1. フランスの身分制度の変化をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・革命以前の絵では、平民が貴族や僧に乗られて苦しい表情をしている。かなり虐げられている。 ・革命直後の絵では、不自由な鎖をはずし、武器を持って貴族や僧に対して立ちあがろうとしている。 <p>平民が立ち上がって革命をおこしたのはなぜだろう</p> <p>2. 課題に対して自分の考えをつくり交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不作が続いた上に様々な税をかけられ、苦しい生活を王や貴族、僧にさせられていることに我慢ができずに革命を行った。 ・貴族や僧は広い土地や特権を与えられ湯吹く生活をしているのに、平民は貧しく、困窮していることに矛盾を感じ、自分たちの政治をしたいと考えた。 ・イギリス革命やアメリカの独立戦争の成功に勇気を与えられたから。 <p>3. この革命で人々が求めたものは何かを考え交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活が苦しいことや高い身分の人々への不満だけでなく、人としての権利である自由や平等を実現したいと考えたのだ。 <p>4. イギリスの革命とアメリカの革命についてまとめる。</p>	<p>イ - 平民が中心となってフランス革命をおこした理由を、封建的な支配からの解放という視点から考察している。</p> <p>場面 学習活動2の直後</p> <p>(方法) ノートの記述 発言内容</p>	<p>略年表 三つの身分(絵) 絶対王政の時代 人権宣言 ナポレオン 絵</p> <p>援助 外国でおきた革命や平民がどんな生活をしてきたかを資料から読み取らせて考えさせる。</p>
		<p>イギリスは国民の意思に反する国王を追い出した。そして議会を中心に政治を行うようになった。イギリスの植民地からの開放を願ってアメリカが独立戦争をおこし、民主的な国をつくっていった。イギリスからおこった自由や平等の理念はナポレオンによってヨーロッパ全土にひろまっていったのだ。</p>		

時	ねらい	学習活動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
3 産業革命とその影響	イギリスでは産業革命が起きたことによって鋳工業が大きく発展して、世界に市場を求めようになるとともに、国内では労働問題が大きな社会問題となったことを理解することができる。	<p>1. 産業革命の様子を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペリーの黒船と同じ様に、煙突から黒い煙をはいて機関車が走っている。蒸気機関が発明されたのだ。 ・日本では馬や人の手を借りなければならないが、早く大量に物資や人を運ぶことができるだろう。 ・蒸気機関だけでなくいろんなことが便利になり大きな影響が出ただろう。 <p>産業革命によってどのような変化がおきたのだろう</p> <p>2. 課題について資料から読み取ったことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家内工業から機械制大工業となって生産量も大幅に増え、綿製品や鉄などの生産が急激に伸びている。また、輸送も大量にできるようになった。 ・大工場が建ち並び、都市に人口が集中し、1600年後半から1800年後半にかけて人口が100倍以上になっているところもある。 <p>3. 産業が発達した結果、どうなったかを考え交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大量生産ができるようになったイギリスでは、原料を輸入し製品を海外に売っていて、世界規模で貿易を行う国になった。そこから「世界の工場」と呼ばれるようになった。 ・国内では子どもが鞭をうたれて働かされている。また、19時間の長時間にわたって働かされ、睡眠も十分とれない程に労働者がひどい扱いを受け、労働問題が発生してきた。 <p>4. 学習したことをまとめる。</p>	<p>ウ - 産業が発達したことによる社会変化を資料から読み取っている。</p> <p>場面 終末</p> <p>方法 ノートの記述 発言内容</p>	<p>鉄道の開通（絵） 綿織物工業と輸送手段の革命 都市人口の変化 イギリスの工業の発達 工場で働かされる子ども（絵） 労働問題の発生（教科書，資料集）</p> <p>援助 表やグラフの変化の推移に着目させて読み取らせる。</p>
		<p>産業革命がおこった欧米諸国は近代的な産業が発達した。その結果、大量生産、大量輸送が可能になり、世界へ市場を求めた国となった。国内では資本家と労働者との間に労働問題が発生し社会主義の考え方も芽生えてきた。特に世界に市場を求めようとするのは、ペリーの来航と大きく関わっているのではないだろうか。</p>		
4 欧米諸国のアジア侵略	イギリスは中国に市場を求めてアヘン戦争をおこし不平等条約を結ばせるとともに、欧米諸国も同様にアジア諸国に進出してきているを理解することができる。	<p>1. アジアの様子をかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国はアジアに進出し、インドや中国などに進出している。特にイギリスが広範囲に進出している。 ・中国では多くの港を開港している。 ・1840年にイギリスと清がアヘン戦争をしている。中国が港を開港していることと関係があるのだろうか。 <p>イギリスが中国(清)と戦争をしたのはなぜだろう</p> <p>2. 課題について考え交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスの輸出は伸び悩み、輸入は増加の一途をたどっている。年がたつにつれて貿易赤字が増大している。 ・貿易赤字に苦しむイギリスが、中国の鎖国に不満を持ったのではないか。 <p>3. イギリスの対応をつかみ、イギリスの目的を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接中国に輸出ができないイギリスは、工業製品をインドに輸出し、インド産の麻薬であるアヘンを中国に密輸することによって、中国の茶や絹などを得るようにしたんだ。これに対し、清はアヘンを厳しく取り締まったので対立が生まれ戦争となった。 ・イギリスはもっと商品を売り込んでいきたいと考えたからだろう。南京条約では上海などの港を開かせている。貿易を行って商品を売り込みたかったのだ。 ・さらに、香港を手に入れるために領事裁判権などを認めさせ、侵略をしようとしたのだ。 <p>5. そのほかの世界情勢をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インドの大反乱をきっかけにイギリスはインドも植民地とした。フランスも同様に中国と不平等条約を結び、ロシアもシベリアや沿海州方面へ進出して行った。 <p>学習したことをまとめる。</p>	<p>エ - 産業革命をおこした欧米諸国は市場開放を求め、アジア諸国に進出して行ったことを理解している。</p> <p>場面 授業後</p> <p>方法 ノートの記述</p>	<p>略年表 19世紀の中頃のアジア アヘン戦争 中国とイギリスの貿易の変化 イギリス・中国・インドの貿易関係図 南京条約</p> <p>援助 アヘン戦争をおこなったイギリスの目的を南京条約から考えさせる。</p>
		<p>・イギリスは中国との貿易赤字に苦しみ大量の製品を中国に売り込みたかったので、貿易を制限する中国を力づくで開港させたのだ。また、これはイギリスだけに限らず欧米諸国が同じようにアジアをねらっていた。ペリーの来航はこんな世界の動きの中でおきたことだったのだ。</p>		

時	ねらい	学習活動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
5 開国と不平等条約	井伊直弼は、外国の脅威から日本の独立を保つために日米修好通商条約を結んだことを理解することができる。	<p>1. ペリーの来航後、日本はどうなったのかをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日米和親条約を結び下田と函館の2港を開港し、日米修好通商条約では貿易を行うことになり、5港を開港した。 関税自主権の放棄や領事裁判権の承認など、日本にとって不利な条約であった。 <p>不平等条約にもかかわらず、井伊直弼が日米修好通商条約を結んだのはなぜだろう</p> <p>2. 課題に対して予想し追究の視点をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業革命を終えているアメリカと日本では力の差が明らかだから仕方なく条約を結んだのではないか。 アヘン戦争では清がイギリスに負けた。ひどい条約を結ばされるよりましだと思ったのではないか。 条約を結ぶことによって欧米諸国の文化を吸収し、国力をつけたいと考えたのではないか。 <p>3. 課題に対する考えを仲間と交流する。</p> <p>【視点 外国の脅威】</p> <ul style="list-style-type: none"> 欧米諸国の軍力はすごい。アメリカと戦争になったら負けるだろう。イギリスは中国(清)のような大国でさえアヘン戦争で勝って、多額の賠償金を支払わせ、半植民地化している。今は一旦従って条約を結び、後で打開策を考えたい。 <p>【視点 開国の利点】</p> <ul style="list-style-type: none"> アメリカだけでなく他の国々とも貿易して、欧米諸国の強力な武器、造船などの進んだ技術や制度等を取り入れれば、後々対抗できるはずだ。 <p>4. 安政の大獄で親藩・譜代大名を含む尊攘派への徹底的な弾圧から、開国派と尊攘派の力関係を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今、国内で、開国派と攘夷派が争っているのは、ますます日本は危なくなる。内部争いをして欧米諸国が付け入る隙を見せたくない。幕府を中心とした幕藩体制を強化しなければならない。だからこそ、たとえ親藩・譜代大名であろうとも反対するものを安政の大獄で弾圧したのだ。 <p>5. 本時の学習を振り返る。</p>	<p>イ - 井伊直弼が、不平等条約を調印した理由を様々な視点から考察している。</p> <p>場面 学習活動3の直後</p> <p>方法 ノートの記述 発言内容</p>	<p>略年表 同米和親条約 日米修好通商条約 井伊直弼(絵) ハリス(絵)</p> <p>援助 仲間の考えを聞かせ、「外国の脅威」や「貿易の奨励」の共通点をとらえさせる。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 井伊直弼は欧米諸国の脅威から、たとえ不平等条約であっても結ばざるを得ないと考えた。反対勢力をおさえなければ、それこそ欧米諸国に付け入る隙を与えてしまう。日本の行く末を思い、あえて安政の大獄を行ったのだ。しかし、結果的には国内が分裂し始めていった。 		
6 薩長同盟	坂本竜馬は新たな国づくりをするために、薩長両藩に同盟を結ばせ、倒幕運動を進めていったことを理解することができる。	<p>1. 薩長同盟までの両藩の動きをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 幕府は朝廷や大名の攘夷の命令をだした。これを受けて長州藩は下関海峡を通る外国船を砲撃した。 攘夷運動の高まりに危機感をもった幕府は、薩摩藩の支持を取りつけて長州藩を屈服させた。 仲の悪いはずの薩摩と長州が手を組んでいる。どうしてだろう。坂本竜馬は何を考えて同盟を結ばせたのだろう。 <p>坂本竜馬が薩長同盟を結ばせたのはなぜだろう</p> <p>2. 課題について考えをつくり交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 竜馬は日本が欧米列強と肩を並べることができる国になるように藩でバラバラになっている当時の日本を天皇中心の統一国家にした上で、近代化を進めようとしていた。イタリアもドイツもロシアも、そしてアメリカも近代国家になるために統一の痛みを味わっていた。 薩摩と長州は、近代化に力を入れていた藩である。その両藩を結びつけることで、倒幕が可能になり、近代国家をつくることにつながると考えていたんだ。 <p>3. 今後の国内の動きをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 将軍の徳川慶喜は大政奉還を行い、政権を朝廷に返した。しかし、西郷隆盛や岩倉具視などは王政復古の号令を出し、徳川家の領地の返上を命じたので、新政府軍と幕府軍との間で戦争がおきた。薩長を中心に新しい時代が始まっていった。 <p>4. 単元のまとめを書く。</p>	<p>エ - 薩長が中心となって新政府を成立させたことを理解している。</p> <p>場面 終末</p> <p>方法 ノートの記述</p>	<p>略年表 下関砲台の占領 薩長同盟 坂本竜馬(絵) 船中八策 大政奉還 王政復古の号令 戊辰戦争(絵)</p> <p>援助 倒幕のために薩長同盟を結ばせようとする坂本竜馬の意図を読み取らせる。</p>
		<p>市民革命や産業革命によって近代化を果たし、大きな国力をもつようになっていった欧米諸国は、鎖国の眠りから日本を目覚めさせた。そして、日本の近代化をはかっていこうという動きが倒幕運動につながったのだ。坂本竜馬がめざす日本像は、近代化を進めるための礎となるものである。薩長が中心となって近代国家をめざす政府ができた。今後、欧米諸国との関係はどのようになり、政府はどのようにしていくのだろうか。</p>		

